

開催日	7月6日(水)	会場	桜が丘小学校 体育館
時間	18:00~18:45	参加人数	16名
計画位置付け	令和13年度 義務教育学校(興津小・桜が丘小・春採中学校)		
質問	Q1-1 義務教育学校についてのメリットばかり強調されているが、デメリットはないのか。義務教育学校を設置しなくても小規模学校だからできることのあるのではないか。		
回答	A1-1 義務教育学校のデメリットとして挙げられるのが、6年生に対するリーダーシップの育成の機会と言われるが、先進事例から、学年段階の区切りを意識させる取組は、学校運営上の工夫によってできるものであり、阿寒湖義務教育学校においても区分ごとの取組を行っている。小規模だから良いこともあるというご意見をいただいたところであるが、小規模の良さも認識している。ただ、学校の規模が小さくなるとその小さい集団の中でしか人間関係を構築することになり、その中でうまくいかない子は不登校になってしまうということもある。やはりある程度の児童・生徒数が必要と考えている。		
質問	Q1-2 学校のすがた基本計画(たたき台)の内容を初めて聞いた。市民に対してはもっと丁寧な説明が必要なのではないか。		
回答	A1-2 学校すがた基本計画(たたき台)を表に出したのが6月上旬であり、6月議会で報告した後に、地域懇談会として市内14か所を回ることにしている。今後、この懇談会で頂いた意見を踏まえ、9月には計画の素案を作る。9月議会にて報告した後、教育懇談会という形で、地域に改めて計画の素案を説明させていただくことを予定している。資料などは市ホームページに掲載していく。		
質問	Q2-1 学校のすがた基本計画(たたき台)の内容は、検討委員会が決めたのか。		
回答	A2-1 検討委員会からの中間報告をベースに、市教育委員会が作成したものである。		
質問	Q2-2 学校の統合再編によって校区が広がり、通学が大変になっている。現場の学校の先生達の意見は聞いたのか。		
回答	A2-2 検討委員会には、校長会・教頭会から参加いただいております。また、保護者の方もいらっしゃるもので、そこらご意見をいただいております。通学路についてはスクールバスの運行についても検討していく予定である。		
質問	Q2-3 義務教育学校を設置した場合、先生が受け持つ児童数が増えて大変になるのではないか。		
回答	A2-3 1中学校と1小学校による義務教育学校は、学級数の人数は変わらないが、2小学校による義務教育学校の場合は、1学級の人数は増える場合もある。しかし、小学校の1学級は35人から40人という基準があり、これが変わるのものではない。		

質問	Q3 義務教育学校を設置した場合、教職員数はそのまま移行するのか。加配はどうか。
回答	A3 職員数は学級数によって決まるものである。義務教育学校の教職員の定数は、前期課程は小学校の、後期課程は中学校の配置基準により教員の数を配置することになる。1中学校と1小学校による義務教育学校では教職員数は変わらないが、1中学校と2小学校による義務教育学校の場合は、現在の2小学校の教員数を合計した数よりは少なくなる場合もある。ただし、校長の人数が減った分は一般教諭等に振り分けられることとなる。 加配については、統合の場合の加配事業あるため、統合前2年間、統合年からの3年間は加配がある。
質問	Q2-4 義務教育学校で使用する校舎は新築なのか。
回答	A2-4 たたき台にてお示している義務教育学校は、既存の施設の活用を考えている。施設の大きさなども決めてはいるものの、学校の敷地の広さや位置関係等についてご意見などをいただいて、どこの校舎を活用するかは検討していきたい。
質問	Q2-5 興津小、桜が丘小の特別支援学級の学級数、児童数はどうか。
回答	A2-5 令和4年5月1日現在の興津小の特別支援学級数は4学級で14人、桜が丘小学校は4学級で21人である。